

『普及版 吟詠教本 漢詩篇(一)CD』収録吟題一覧

【第一集】 — 日本 絶句 —

No.	吟 題	作 者	頁
1	大正天皇御製(一)歳朝皇子に示す		2
2	大正天皇御製(二)宝刀		3
3	朗 詠	新田 興	4
4	新年雪裏の梅花に賦す	有智子内親王	5
5	秋日友人に別る	巨勢 識人	6
6	九月十日	菅原 道真	7
7	客 中	一休 宗純	8
8	九月十三夜	上杉 謙信	9
9	山 居	藤原 惺窩	10
10	武野の晴月	林 羅山	11
11	富士山	石川 丈山	12
12	春日の作	新井 白石	13
13	還館口号	荻生 徂徠	14
14	田園雑興	伊藤 東涯	15
15	関山月	祇園 南海	16
16	夜墨水を下る	服部 南郭	17
17	晩秋舟行	市河 寛斎	18
18	先妣の十七回忌祭郷例に従って行香し涙余に此れを賦す	菅 茶山	19
19	不識庵機山を撃つのでに題す	頼 山陽	20
20	志を言う	藤田 東湖	21
21	桂林荘雑詠諸生に示す	広瀬 淡窓	22
22	老 泣	梁川 星巖	23

【第二集】 — 日本 絶句 —

No.	吟 題	作 者	頁
1	松前城下の作	長尾 秋水	24
2	夏の夜	江馬 細香	25
3	芳 野	藤井 竹外	26
4	芳野懐古	正墻 適処	27
5	蛩を観る	大槻 磐溪	28
6	岐阜竹枝	森 春濤	29
7	楠公子に訣るるの因	大沼 枕山	30
8	北海道巡遊中作	伊藤 博文	31
9	金州城下の作	乃木 希典	32
10	磯浜望洋楼に登る	三島 中洲	33
11	貴者四章時勢に感ずること有りて作る	石田 東陵	34
12	紅葉館にて饗飲席上率に賦す	国分 青厓	35
13	夏日偶成	三浦 英蘭	36
14	甲戌の冬舟中に月を見て感有り	中江 藤樹	37
15	和歌の題を分ち秋日雑興を得て命に应ず	山県 周南	38
16	母を憶う	頼 山陽	39
17	夏初桜祠に遊ぶ	広瀬 旭荘	40
18	漫 述	佐久間象山	41
19	寒 梅	新島 襄	42
20	偶 感	勝 海舟	43
21	自 訟	杉浦 重剛	44

【第三集】 — 日本 律詩他 —

No.	吟 題	作 者	頁
1	九日後朝同に秋思を賦して制に应ず	菅原 道真	46
2	姑蘇台	絶海 中津	48
3	一乗寺に遊ぶ	伊藤 仁斎	50
4	近江八景	大江 敬香	52
5	桜花の詞	逸 名	54
6	雑 詩	皆川 淇園	56
7	富士山	柴野 栗山	58
8	失題(外甥政直に示す)	西郷 南洲	60
9	散 歩	梁川 紅蘭	62
10	桜花行	副島 蒼海	64
11	無 欲	良 寛	66
12	本能寺	頼 山陽	68
13	塾生に示す	尾藤 二洲	70
14	新潟に宿す	吉田 松陰	74
15	偶 成	木戸 孝允	76
16	橋上月に立つ	村上 仏山	79
17	白虎隊	佐原 盛純	81
18	梅溪の春暁	上 夢香	85

『普及版 吟詠教本 漢詩篇(一)CD』収録吟題一覧

【第四集】 — 中国 絶句 —

No.	吟 題	作 者	頁
1	湘江を渡る	杜 審言	90
2	涼州詞	王 之渙	91
3	涼州詞	王 翰	92
4	出塞行	王 昌齡	93
5	元二の安西に使いするを送る	王 維	94
6	峨眉月月の歌	李 白	96
7	塞上にて吹笛を聞く	高 適	97
8	塞下の曲	常 建	98
9	軍城早秋	嚴 武	99
10	京に入る使いに逢う	岑 参	100
11	春行興を寄す	李 華	101
12	楓橋夜泊	張 継	102
13	帰 雁	錢 起	103
14	楊柳枝詞	劉 禹錫	104
15	山 行	杜 牧	105
16	夜雨北に寄す	李 商隱	106
17	画眉鳥	欧陽 脩	107
18	初 夏	司馬 光	108
19	夜 直	王 安石	109
20	初冬の作 劉景文に贈る	蘇 軾	110
21	児に示す	陸 游	111
22	江村晚眺	戴 復古	112
23	東 城	趙 孟頫	113
24	夜天池に宿し月下に雷を聞く次いで早に大雨を知る	王 陽明	114
25	高郵雨泊	王 士禛	115
26	易水の送別	駱 賓王	116

【第五集】 — 中国 絶句・律詩他 —

No.	吟 題	作 者	頁
1	春 曉	孟 浩然	117
2	袁氏の別業に題す	賀 知章	118
3	静夜思	李 白	119
4	秋 日	耿 滄	120
5	秋夜丘二十二員外に寄す	韋 応物	121
6	酒を勧む	于 武陵	122
7	江南故人に寄す	家 鉉翁	123
8	曉に順城門を出で何太虚を懐う有り	掲 傒斯	124
9	家書を得たり	高 啓	125
10	京師にて家書を得たり	袁 凱	126
11	虞 姫	呉 永和	127
12	古 意	沈 佺期	128
13	黄鶴楼	崔 顥	130
14	登 楼	杜 甫	132
15	長安春望	廬 綸	134
16	柳州の城楼に登りて漳・汀・封・連四州の刺史に寄す	柳 宗元	136
17	左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す	韓 愈	138
18	香炉峰下新たに山居を卜し草堂初めて成る偶東壁に題す	白 居易	140
19	八月十五夜禁中に独り直し月に対して元九を憶う	白 居易	142
20	湖辺の荘に題す	朱 熹	144
21	三月三日重ねて虎邱に遊ぶ	郭 麟孫	146
22	秋日弟を懐う	謝 榛	148

【第六集】 — 中国 律詩・古詩他 — 2/2

No.	吟 題	作 者	頁
1	赤 壁	袁 枚	150
2	友人を送る	李 白	152
3	春 望	杜 甫	154
4	太白山下早行して横渠鎮に至り崇寿院の壁に書す	蘇 軾	156
5	山中の月	真 山民	158
6	太白楼に登る	王 世貞	160
7	垓下の歌	項 羽	162
8	大風の歌	高 祖	163
9	七歩の詩	曹 植	164
10	貧交行	杜 甫	165
11	白頭吟	卓 文君	166
12	古詩(十九首の一)		169
13	秋風の辞	漢の武帝	172
14	園田の居に帰る	陶 潜	174
15	斎中読書	謝 靈運	178
16	秘書晁監が日本に還るを送る	王 維	181
17	勸学の歌	司馬 光	184
18	湘夫人の詠	元 好問	187